

株式会社ソフトフロント

2010年3月期 通期決算説明資料

2010年5月19日

この資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「期待」、「計画」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示されるほかの媒体にも含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な見通しのみで全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

2010年3月期 通期業績の概要

取締役 財務・管理統括担当 佐藤健太郎

業績の概要

(単位：百万円)

	2009年3月期 通期	2010年3月期 通期	前年同期比 (%)	増減
売上高	764	651	85%	△113
営業損益	△203	△261	-	△58
経常損益	△204	△261	-	△56
当期純損益	△205	△291	-	△85

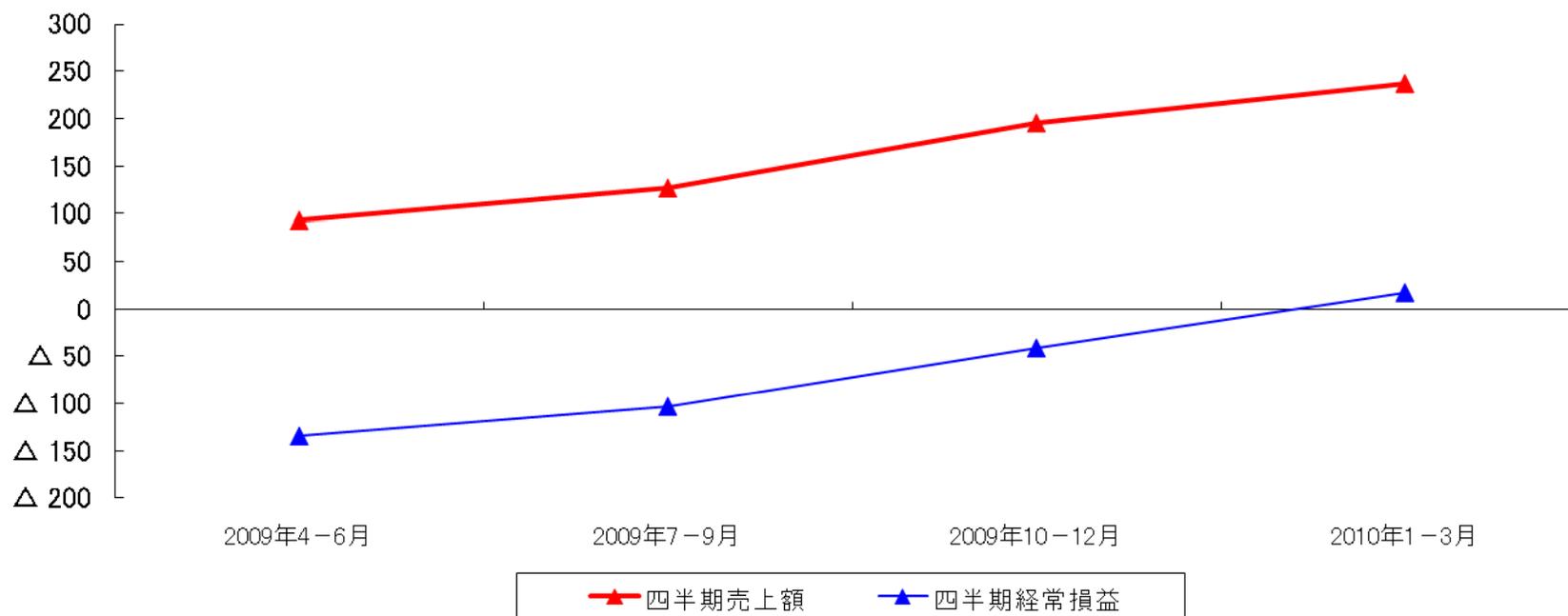
NGN環境の広まりにより、事業内容は従来の研究開発系の案件から商用フェーズ案件へと順調に移行してきており、四半期毎の売上高は右肩上がりとなった(スライド4参照)

しかしながら、その規模は未だ急拡大といえる水準までは至っておらず、2009年3月期に比べ減収減益となった

四半期業績推移

(単位：百万円)

	2010年3月期			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
四半期売上高	92	126	195	237
四半期経常損益	△134	△103	△41	18



売上の状況

(単位：百万円)

	売上高		受注高		受注残	
	2009年3月期 通期	2010年3月期 通期	2009年3月期 通期	2010年3月期 通期	2009年3月期 通期	2010年3月期 通期
受託開発	616	485	607	526	17	57
ソフトウェア販売	148	166	124	165	16	15
合計	764	651	731	692	33	73

第1四半期での落ち込み分を上回るだけの回復には至らなかったため、受託開発売上は前年に比べ減少

ソフトウェア販売は、事業が商用フェーズに移行してきたことで、徐々にではあるが増加

2010年3月期通期：キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	△121
税引前当期純利益	△289
減価償却費	116
売上債権の増減額 (△増加)	95
仕入債務の増減額 (△減少)	△29
その他	△13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	—
現金及び現金同等物の増減額	△189
現金及び現金同等物期末残高	335
フリー・キャッシュ・フロー	△189

業績予想

(単位:百万円)

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
中間期	240	△178	△178	△180
通期	720	5	5	0

<売上高>

- NGNの商用サービス拡大に伴い、SIP関連技術の適用領域が拡大することが見込まれるものの、急拡大することが具体的に確実視できる状況までには至っておらず、前年比1割強の増加見込にとどめる。

<利益>

- 固定費の削減ならびに外注加工費、人件費の流動化に向けた施策を実行することで、通期での黒字化を見込む。

参考資料

企業理念（＝私たちの存在意義）

技術を愛し、技術を提供することによって、社会変革の牽引役となり豊かな社会を実現すること

※ 社会環境の変化： ユビキタスネットワーク社会の実現

※ SIPを活用した end-to-end（人と人、機器と機器、人と機器）のネットワーク環境を実現

ビジョン

- ・ 当社SIP技術をデファクトスタンダードにする
- ・ ライセンスビジネスの成功

・ 社名	株式会社ソフトフロント
・ 上場市場	大阪証券取引所「ヘラクレス」（2002年9月10日上場）
・ 証券コード	2321
・ 設立	1997年4月18日
・ 所在地	東京本社 東京都港区赤坂4丁目2-19 赤坂SHASTA・EAST 3F 札幌本社 札幌市中央区北9条西15丁目28-196 札幌ITフロントビル 3F
・ 代表取締役	社長 阪口克彦
・ 従業員数	66名
・ 資本金	27億9,247万円
・ 決算月	3月
・ 事業内容	SIP、VoIP技術 を核としたソフト開発環境の提供 および 技術支援、関連する受託開発・コンサルティング
・ URL	www.softfront.co.jp

2010年4月1日現在

ソフトフロントが得意とする**SIP技術**

||

ユビキタスネットワーク社会を実現する**基盤技術**

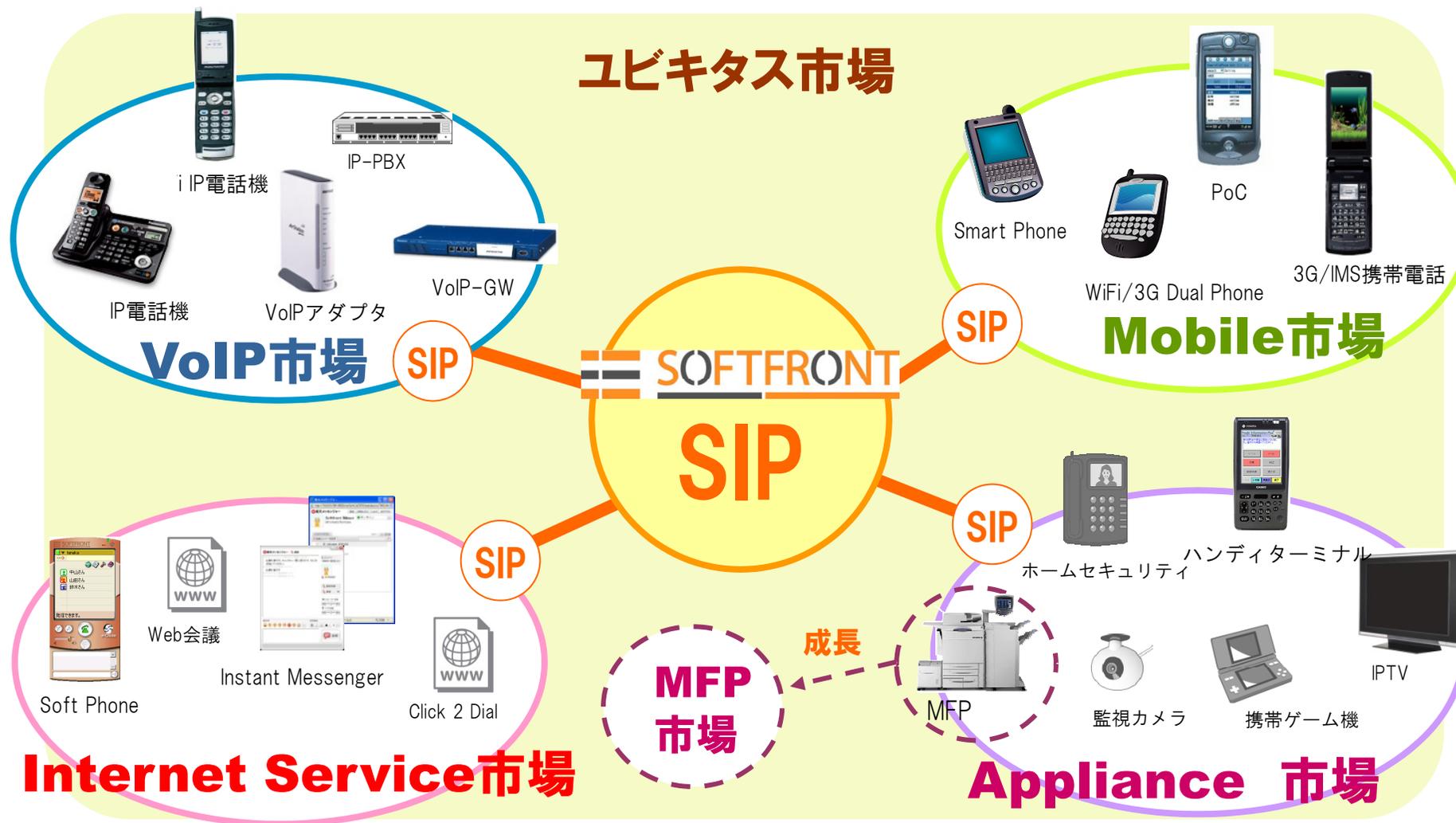
ユビキタスネットワーク社会は、国連の下部組織であるITU-T(国際電気通信連合)が標準化を進めるNGN(次世代ネットワーク構想)によってその実現が後押しされており、**NGNの基盤技術にSIPが採択**されました。

ユビキタスネットワーク社会全体

||

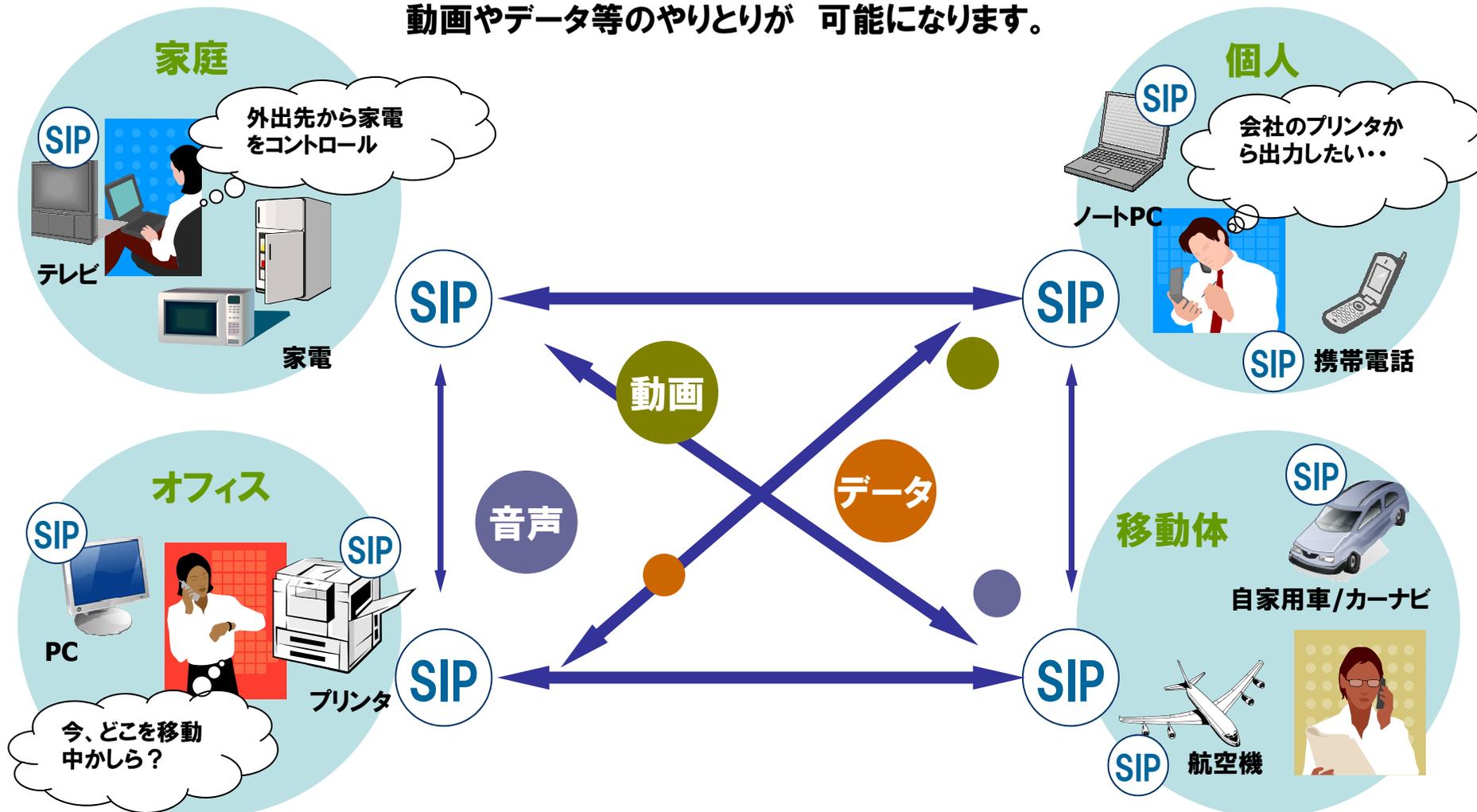
ソフトフロントの**事業領域**

ユビキタス市場に参入する様々な企業に向けて、SIP関連製品・トータルソリューションを提供

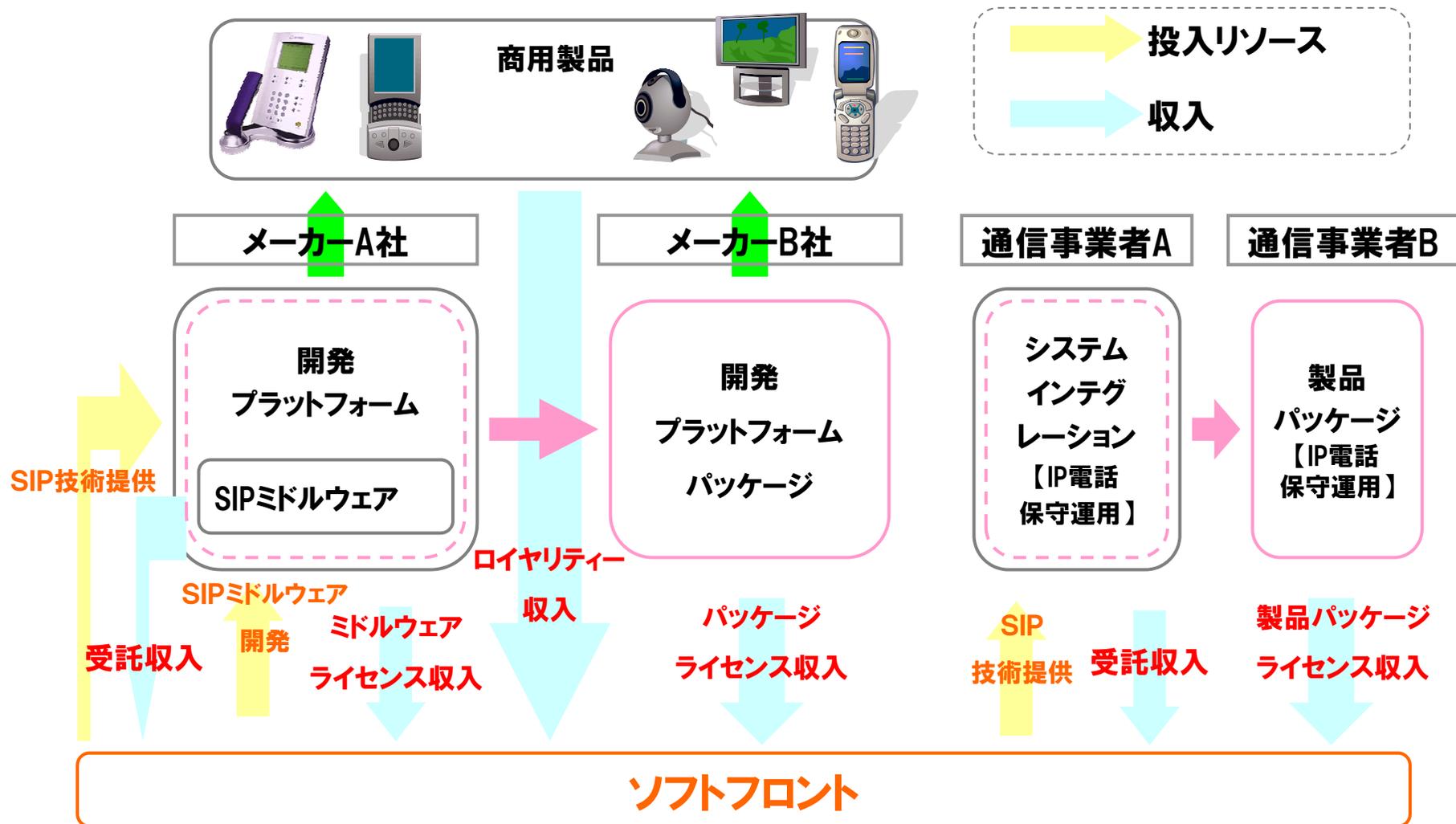


ユビキタスネットワーク社会では「SIP」を使い「いつでも、どこでも、誰でも、何でも」繋がる
便利な社会が実現されます。

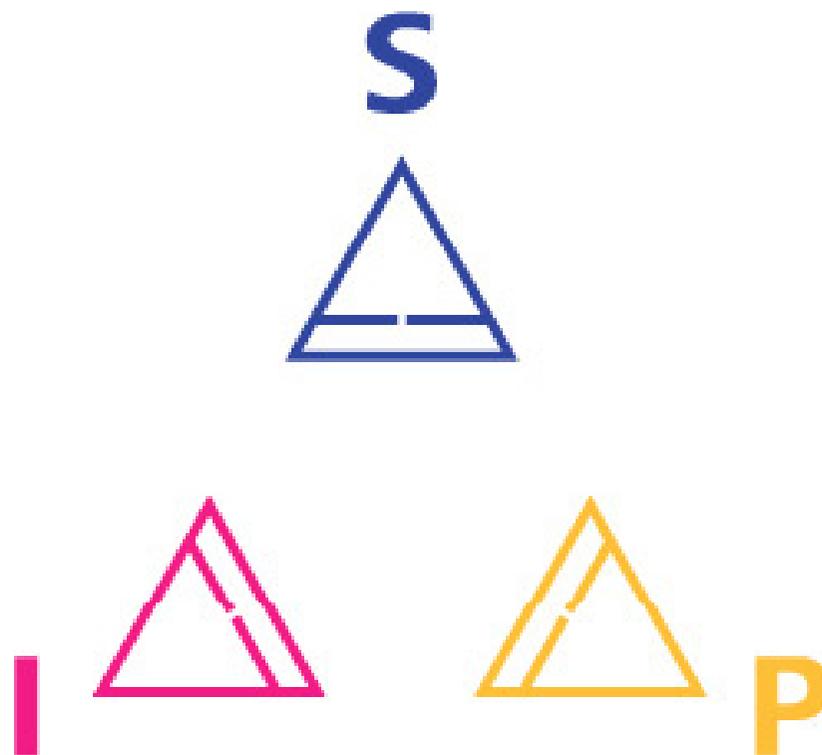
人から人、人から機器、機器から機器へ、音声はもちろん、
動画やデータ等のやりとりが 可能になります。



多様な収益モデルで収入の安定化を図っています



SIP connects the future



**ソフトフロントは SIP 技術を基に
社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現します**